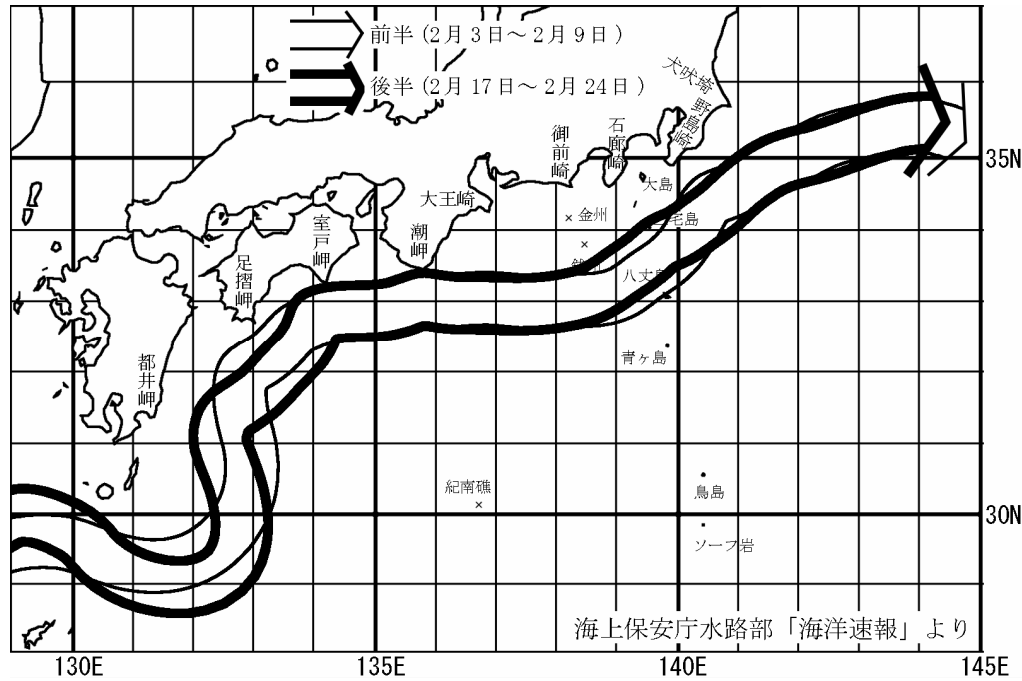


漁海況月報

平成 16 年 2 月 1 日

No. 2 ~2月29日

静岡県水産試験場
(電話 054-627-4815)
静岡県水産試験場伊豆分場
(電話 0558-22-0835)



2004年2月
定地水温の旬平均値 ()

期 間	定地水温の旬平均値 ()						
	伊東	稲取	下田	雲見	沼津	焼津	地頭方
上 旬	13.2	14.3	14.0	14.2	13.5	14.0	10.9
	-0.8	-0.2	0.2	-0.2	-0.6	0.5	-0.6
中 旬	13.0	14.0	13.2	13.4	13.5	13.4	10.8
	-0.9	-0.1	-0.4	-0.8	-0.6	0.1	-0.9
下 旬	13.1	14.0	13.3	13.4	12.7	13.2	10.9
	-0.6	-0.0	-0.4	-0.9	-1.0	-0.2	-0.7
月平均	13.1	14.1	13.5	13.7	13.3	13.6	10.9
	-0.8	-0.1	-0.2	-0.6	-0.7	0.2	-0.7

[黒潮流路]

黒潮は、遠州灘沖 33° ~ 33° 30'N 付近を東進、御蔵島から三宅島付近を通過したのち房総沖を北東に流去した。1 月下旬後半から 2 月上旬にかけて、遠州灘沖から伊豆諸島東側へと小さな蛇行が東進したが流型変化には至らず、黒潮は N 型であった。1 月を通じて遠州灘沖にあった冷水渦は、小蛇行の東進に伴い伊豆諸島東側に移動・縮小した。小蛇行は内側反流を伴ったが、暖水は沿岸には達しなかった。

[県下沿岸域]

小蛇行の通過後、県下沿岸域は低温化した。定地水温は、相模湾側では 12~14 台、駿河湾東部では 11~15 台、駿河湾西部では 10~14 台で経過した。全ての観測点で平年並みから平年より低めであった。

[竿釣近海カツオ]

2 月の県内主要 5 港 (沼津、清水、焼津、小川、御前崎) における近海カツオの水揚量は 735 トンで前年同期の 55% であった。魚価は 351 円 / kg で、前年同期を大きく上回った。

静岡県中型竿釣船の記録 (QRY) によれば、2 月の漁況はおおむね以下のとおり推移した。

上旬：23° ~ 26° N、141° ~ 144° E (表面水温 21 ~ 25) に漁場が形成され、特特大、特大、中、大カツオを漁獲した。

中旬：19° ~ 22° N、134° ~ 137° E (表面水温 23.4 ~ 25.5) に漁場が形成され、特大、大、中カツオを漁獲した。

下旬：22° N、139° E (表面水温 25 前後) 付近と 16° N、138° E (表面水温 27 前後) に漁場が形成され、中、大、小カツオを漁獲した模様。

竿釣近海カツオ水揚量 (県内主要 5 港)

期 間	水揚量 (トン)	水揚 隻数	水揚量 / 隻 (トン)	平均単価 (円 / kg)
16 年 2 月上旬	87	8	10.9	548
中 旬	345	18	19.2	335
下 旬	303	12	25.3	313
16 年 2 月計	735	38	19.3	351
15 年 2 月計	1,338	42	31.9	185
14 年 2 月計	1,097	43	25.5	254

[定置網]

平成 16 年 2 月、伊豆半島東岸大型定置網 8 か統 (伊豆山、古網、赤石、川奈、富戸、赤沢、北川、谷津) における水揚量は 231 トンであった。1 漁場当たり水揚量 28.9 トンは、前年 18.0 トンの 1.6 倍、平年値 (昭和 57 ~ 平成 15 年平均値) 21.5 トンの 1.4 倍であった。

魚種別にみると、ブリ 99.2 トン (前年の 72 倍、平年の 12 倍) カタクチイワシ 80.9 トン (前年の 27%、平年の 2.0 倍) スルメイカ 15.4 トン (前年の 1.2 倍、平年の 1.4 倍) マアジ 7.8 トン (前年の 53%、平年の 48%) マイワシ 6.8 トン (前年の 2.0 倍、平年の 28%) の順に多かった。

ブリは平均体重 8.5kg、尾叉長の中心 75 ~ 79cm の銘柄ブリが北川で 2 月 16 日及び 17 日の両日で計

10,256本(87,180kg)と特異的に入網した。これは卓越した2000年級群(4歳魚)が中心と考えられ、1万本以上の入網は昭和57年以来であった。カタクチイワシは富戸、川奈を中心に入網し、被鱗体長の中心は11.5~12.5cmであった。スルメイカは北川及び谷津を中心に入網し、外套背長の範囲は21~27cmであった。マアジは谷津、伊豆山及び北川を中心に入網し、尾叉長のモードは18~20cmであった。マイワシは伊豆山を中心に入網し、被鱗体長の中心は12.5~14.0cmであった。

漁場別水揚量は、ブリの漁獲が多かった北川(114トン)、カタクチイワシの漁獲が多かった谷津(30.8トン)、富戸(30.1トン)の順であった。

2月24日 御前崎沖にて水温調査(1日間)
2月25~26日 三宅島にてサバ漁場調査(2日間)

[サバたもすくい棒受網]

小川港にはマサバ8トン、ゴマサバ676トン、合計684トンの水揚げがあった。マサバは主に利島近海で、ゴマサバは三宅島近海で漁獲され、その大きさはそれぞれ、26~43cm、33cm以下のものが主体であった。1kg当たりの平均単価は、マサバ277円、ゴマサバ50円であった。

小川港 サバ類(たもすくい・棒受網漁業)水揚量

期 間	水揚量 (トン)	日数	延隻数	1隻当り (トン)	漁 場
平成16年 上旬	204	3	9	22.6	三宅、利島
2月 中旬	426	5	22	19.3	三宅、利島
下旬	54	1	4	13.5	三宅
計	684	9	35	19.5	- - - - -
平成15年2月	867	15	55	15.7	三宅、三本、利島
平成14年2月	1,256	14	62	20.3	三宅、三本、銭洲

[まき網]

小川港では、マイワシは113.2トン水揚され、平年同期(過去5か年平均:93.6トン)の121%と好調であった。カタクチイワシは2.6トン水揚され、平年同期(3.0トン)の87%と低調であった。

沼津港では、マイワシは153.2トン水揚され、平年同期(132.3トン)の116%と好調であった。カタクチイワシは水揚されなかった。

静浦港では、マイワシは水揚されなかった。過去5か年においても、2月にマイワシは水揚されていない。カタクチイワシは32.5トン水揚され、平年同期(45.4トン)の72%と低調であった。

伊東港では、マイワシ、カタクチイワシともに水揚されなかった。

[調査船の動向]

富士丸

~2月16日 南方カツオ調査(16日間)

駿河丸

2月2日 地先定線観測(駿河湾・遠州灘・伊豆)(1日間)

2月9~10日 駿河湾内にて地先定線観測及びサクラエビ IKMT 調査(2日間)

2月12~13日 石花海にてサバ標識放流調査(2日間)

2月17~19日 駿河湾にて静大の深層水調査(3日間)

2月20日 御前崎沖にて水温調査(1日間)